

7-12					
主題	団地の見守り活動が住民主体で継続していくための支援				
副題	～見守り隊の想いが住民の意識を変えていく～				
キーワード 1	見守りネットワーク	キーワード 2	住民主体	研究(実践)期間	6 ヶ月

法人名	社福)一誠会	事業所名	高齢者あんしん相談センター大和田
発表者(職種)	岡部奈々美(生活支援コーディネーター)		
共同研究(実践)者	勝呂舞(社会福祉士)、芦田弥生(センター長)		

電 話	042-649-3280	FAX	042-649-3281
-----	--------------	-----	--------------

事業所紹介	八王子市高齢者あんしん相談センター大和田は、国道が交差し、八王子駅よりバスで 10 分ほどの担当圏域の中心部に位置している。八王子市の高齢者人口は 155,844 人、高齢化率は 27%。対して、圏域の高齢者人口は 4,372 人で、高齢化率は 23%。1950 年代以降団地の建設が進み、現在圏域内に団地が 7 ヶ所あることも、特徴の一つとなっている。
-------	---

《1. 研究(実践)前の状況と課題》

圏域内の或る都営団地では、以前より、孤独死や住民間のトラブルなどの課題が多く、昨年はエリアを担当する民生委員が不在になったこともあり、あんしん相談センター大和田(以下、センターとする)では、団地の情報がつかみにくくなり、課題がある住民の状況把握などに弊害が起きることを危惧していた。そこで、団地の実態を把握するために、東京都住宅供給公社に聞き取りを行った。それによると、団地の世帯数 440 世帯のうち、65 歳以上の世帯と精神疾患の方がいる世帯を合わせると 170 世帯。高齢化率は 60% 台。現在、東京都住宅供給公社が、住民などから何らかの相談を 44 件から受けており、うち生活保護受給者が 22 件、精神疾患者が 17 件、被害妄想の相談が 12 件である実態がわかった。また、センターで集計を行ったところ、R4 年 3 月～R6 年 3 月までに、同団地内から寄せられた、安否確認に特化した相談は、14 件あることが確認された。これらのことから、令和 6 年度センターにおける重点的取り組みとして、同団地内での見守りに関する仕組み作りを掲げ、団地住民へのアプローチをしていくことを目標のひとつに定めた。そこで、見守りネットワークを作るにあたり、活動が継続していくためにも住民主体のものにしていく必要があるため、どのように団地にアプローチをしていくか、センターで検討していたところ、今年度新たに就任した会長より、団地内で見守りネットワークを作りたいという相談が寄せられた。今年、団地内で孤独死があったことで、住民のなかで「団地内で孤独死を出すのは恥ずかしい」という意識が芽生え、団地内の課題をどうにかしたいという理由からである。

《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》

住民が団地内の課題を解決したいという意識を持つことによって、住民主体の見守りの仕組みを継続できることにつながるとともに、課題の早期発見につながるのではないかと。

《3. 具体的な取り組みの内容》

警察や東京都住宅供給公社や互助会、警備会社など関係者に声をかけ、地域ケア会議を開催した。ま

た、団地内で結成された見守りネットワークを「見守り隊」と名付け、メンバーと個人情報の取り扱いの注意点などについて何度も話し合いを続けていった。自治体より詐欺被害についての講座案内など参考に、なりそうな情報をセンターで得られた際には、情報提供も適宜行った。月 2 回の定例会にも毎回参加し、相談や課題が出てきた際は助言を行いながら、団地の課題に対して住民が対応できる範囲を超えないよう、負担感の軽減も配慮してサポートを行った。生活支援コーディネーターとしては、緊急時の連絡の流れを整理し可視化するなど、立ち上げの際の仕組み作りのサポートを行った。また、毎回の定例会を協議体として位置づけ、メンバーとコミュニケーションを図り、団体の課題を把握した。トラブルが起きた際にはサポートできる体制を作り、見守り隊の活動が継続できるよう支援を行った。センターでは、見守りネットワークから相談があった際は、相談記録をファイルに保管し、すぐに記録を見返せるようにした。

《4. 取り組みの結果》

最初は「なにをしたらいいかわからない。相談が来たケースは全部対応しなくてはならない」と不安に思っていた「見守り隊」のキャプテンに、「困ったときは連絡をください」と何度も伝え、相談時には速やかな対応を継続したところ「なにかあれば（あんしん相談）センターに連絡すればいいのですね。全部抱えなくていいことが分かり、安心しました」と見守りを行う上での不安感を取り除くことができた。キャプテンの不安がなくなり、見守りに対して前向きに取り組めるようになったことで、団体としての士気も高まり、団地内に見守りネットワークの活動を知ってもらおうと団地内の総会で活動発表を行い、住民への訪問を続けた。その結果、センターが定期的に見守りをしていた方の訪問の頻度も限度があったが、見守り隊が発足されたことで、見守り隊が定期訪問する件数が圧倒的に増えた。その結果、問題があった際には、見守り隊とセンターが連携を図り、すぐに対応できる体制が整ってきている。

《5. 考察、まとめ》

新しい活動を始めるにあたり、活動に対して理解を得られない住民や訪問を拒否する住民もいるが、メンバーたちが地道に訪問や日常の中での声かけを続け、寄せられた相談に対して丁寧に対応することで、訪問や緊急連絡先の提出を拒否していた住民が理解を示されるなど、徐々に団地内での理解の輪は広がっている。また、センターも見守り隊の立ち上げからサポートし、現在も継続して定例会に出席するなど、関わりを持つことで、見守り隊と顔の見える関係を構築できてきている。その結果、団地からの相談件数が見守り隊を通しての増加につながっている。以前より団地内に課題が多いことを漠然と感じていたが、今回見守り隊と連携を図れたことで、より団地内での課題が明確化してきているケースもみられている。

今後も、迅速にサポートができるよう定期的にメンバーとコミュニケーションを図り、住民が「安心」「安全」に団地での生活が継続していけるように、関係機関と連携を図りながら、支援していきたい。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

- 1) 東京都福祉保健局 高齢者等の見守りガイドブック 第 4 版：令和 6 年 11 月 25 日
<https://www.fukushi.metro.tokyo.lg.jp/kourei/koho/mimamoriguidebook.files/guidebook4.pdf>
- 2) 「八王子市の人口統計」 八王子市：R6 年 11 月 28 日
<https://www.city.hachioji.tokyo.jp/hachiouji/jinko/index.html>

《8. 提案と発信》

今回団地内での見守りネットワークができ、この活動が広がることで、地域のなかで見守りの意識が広がり、より良い地域になっていくと考えた。